

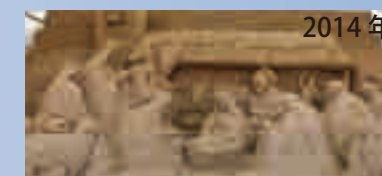
あしや砂像展 2016

とまき
時空を超えて ～宇宙～
10月21日(金)～11月6日(日)

復活を果たしたあしや砂像展

芦屋町が平成7年から観光資源として行ってきた「砂浜の美術展」(詳しくは3ページに掲載)は、財政難のため平成17(2005)年を最後に休止していました。しかし、平成26年、日本の砂像彫刻の先駆者、茶園勝彦さんちやえんによるメイン砂像展示など9年ぶりに復活を果たし、「冬の砂物語」をテーマに「あしや砂像展」としてあらたに歩みはじめました。

復活2年目の昨年には、県内では初となる海外で優勝・入賞経験豊富な選りすぐりのプロ砂像彫刻家4人を招きました。同年、明治日本の産業革命遺産として中間市の遠賀川水源ポンプ室が世界遺産に登録されたのを機に「産業革命」をテーマに取り上げ、質の高い砂像展示が実現しました。



2014年



2015年

さらにクオリティーを高めて、完全復活へ

そして、復活3年目を迎えた今年は、アインシュタインが「一般相対性理論」を提唱してからちょうど100年の記念の年にあたることから、「宇宙」をテーマに取り上げました。奇しくも今年の春、100年前に提唱された重力波が世界中で観測されたというニュースが発表されました。また、アメリカでは宇宙旅行の募集がはじまったり、中国では有人ロケットの打ち上げにも成功しました。

昨年に引き続きプロデューサーを務める茶園さんは、「むずかしいテーマではあったが、話題に事欠きません。砂像イベントのテーマとして宇宙を取り上げたのは、芦屋町が世界ではじめてです。世界で注目を集める外国人彫刻家が芦屋町に集結して活動する様子は、彼らによりSNSなどで情報発信されることでしょう」と世界を視野に入れたあしや砂像展をPRしてくれました。

海外のプロの砂像彫刻家6人(アメリカから2人、イタリア・シンガポール・ロシア・リトアニアから各1人)を含む計10人がクオリティーの高い大型砂像をつくりました。

展示された砂像は、古代から人類が憧れを抱いてきた「宇宙」を表現。ギリシャ神話からはじまり、中世のコペルニクスなどによる天体観測の歴史を経て、近年の宇宙ステーションやスペースシャトルなど、宇宙開発に向け、時代がすすんだ様子を展示しました。メイン砂像は、やがて人類が火星に着陸する姿を想定してファンタジックに表現しました。

ちょっとおさらい

砂像展はじまりのはなし












さかのぼること24年。

平成4(1992)年8月、海と砂浜を活かしたイベント「ビーチカーニバル」が芦屋海水浴場で行われました。この中で行われた体験型の「砂の彫刻コンテスト」では家族や友人たちで構成された13チームが参加し、3時間で砂のモニュメントをつくりました。これが、芦屋町のビッグイベント「砂像展」へのはしがけとなりました。

平成5(1993)年8月、大型砂像制作事業「青い海のカーニバル」では、日本のサンドクラフト発祥の地である鹿児島県加世田市の吹上浜「砂の祭典」実行委員会から指導者として4人を招き、サグラダファミリア(スペイン)とノブゴロド大聖堂(ロシア)の大型砂像2基をつくりました。町民の皆さんと町職員が一緒になって、芦屋町の砂が砂像づくりに適するの模索しながら砂像づくりにチャレンジしました。

結果、芦屋海岸の砂はサンドクラフトに非常に適していることがわかり、巨大でありながら微細な表現ができる砂像は芦屋町自慢のイベントとして発展してきました。

平成6(1994)年8月、航空自衛隊芦屋基地や各学校のPTA、各種団体、企業の協力のもと、公募で集った町民の皆さんや町職員などが砂像づくりにまい進しました。これは、加世田市の砂像制作指導員による講習会を受けることで、本格的な大型砂像制作を可能へと導きました。そして、テーマを「愛と平和への祈り」と掲げた長崎平和祈念像など4基の大型砂像をつくることができました。8月26日～30日の5日間で来場者約4万7000人を数え、町の事業として本格的な「砂浜の美術展」のはじまりとなったのです。

	1995年 ①平成7(1995)年(8月24日～31日) ②旅と出逢い ③アムステルダム駅とオランダの町並みなど10基 ④約12万4000人
	1996年 ①平成8(1996)年(8月23日～28日) ②海からの贈りもの ③紫禁城と万里の長城など14基 ④約18万人
	1997年 ①平成9(1997)年(8月23日～27日) ②ファンタジック・ワールド ③ワシリー大聖堂など17基 ④約25万5000人
	1998年 ①平成10(1998)年(8月27日～31日) ②時代を受け継ぐ者たちへ～アジアからのメッセージ～ ③アンコールワットなど34基 ④約20万4000人
	1999年 ①平成11(1999)年(8月20日～24日) ②未来への遺産～ヨーロッパの輝～ ③サン・ピエトロ大聖堂など33基 ④約11万人
	2000年 ①平成12(2000)年(8月25日～29日) ②古代から未来へ、砂のかけ橋～エジプトの神々～ ③アブシンベル神殿など33基 ④約12万8000人
	2001年 ①平成13(2001)年(8月24日～28日) ②新しい航海～アメリカからの砂物語～ ③マウント・ラッシュモアなど34基 ④約9万2000人
	2002年 ①平成14(2002)年(8月22日～26日) ②ようこそ夢の世界へ～砂幻像のメルヘン城～ ③ノイシュヴァンシュタイン城とグリムの森など36基 ④約9万6000人
	2003年 ①平成15(2003)年(8月27日～31日) ②この夏にしか逢えない一瞬～未来へつづく天空の砂宮～ ③ラサのポタラ宮と神龍など35基 ④約7万4000人
	2004年 ①平成16(2004)年(8月19日～23日) ②継承～永遠に歴史を刻む砂時計～ ③ウエストミンスター宮殿と近衛兵など35基 ④約6万5000人
	2005年 ①平成17(2005)年(8月25日～29日) ②愛 ③モン・サン・ミシェルなど36基 ④約9万6000人



火星の探査活動